

令和6年度 医師及び看護師の負担軽減計画

大曲厚生医療センター

	分野	項目	令和6年度	
			計画	評価
医師の 負担軽減計画 及び評価	医師の労働時間管理	医師の労働時間管理の適正化に向けた取り組みを行う。	在院時間の客観的な把握 ① 勤怠システムによる客観的な出退勤管理 ② 時間外労働の業務内容の分析と課題の明確化 ③ 当直明けの休みの推奨 ④ 診療時間内の病状説明	① 勤怠システムによる医師の打刻率 100% ② 全医師 A水準（960時間未満） ③ 研修医は朝から帰宅。昼までに帰宅するようにしている。 ④ ホームページ・院内掲示等で周知、実施している。
	医師の負担軽減	医師と多職種のタスクシェアリング／タスクシフティングを推進し、より効率的な業務体制を構築し、負担軽減を図る。医師事務作業補助体制の充実。	多職種との連携による役割分担。 ① 処方への疑義照会における事前合意プロトコル(薬剤科) ② がん患者指導管理における説明(薬剤科) ③ 超音波検査に対する迅速な報告(検査科) ④ 検査結果説明業務等の補助(検査科) ⑤ 特別食や栄養指導などが必要と思われる患者を速やかに医師にフィードバックし指示を受ける(栄養科) ⑥ 肺がんCT検診認定技師による一次読影(放射線科) ⑦ リハビリ処方箋の修正(リハビリ科) ⑧ リハビリ開始時の患者説明(リハビリ科) ⑨ 各種計測(身障、年金、保険等)(リハビリ科) ⑩ カンファレンス記録の転記(リハビリ科) 医師事務作業補助者の配置による医師の事務作業の負担軽減。 ① 医師事務作業補助加算15対1の維持 ② 研修会参加や勉強会開催によるスキルアップ	① 約70件/月 ② 約13件/月 ③ 検査予約や緊急依頼に迅速な対応を行った。 ④ 件数増加に対し優先度を確認し実施している。超音波認定技師不足が課題。 ⑤ 実施している。 ⑥ 0件/月 ⑦ 約455件/月 ⑧ 約380件/月 ⑨ 約11件/月 ⑩ 実施している。 ① 2月現在、医師事務作業補助者数（42名） ② 本所主催Web研修会 10/18
	医師の勤務シフト	日当直勤務体制の効率的な見直しを行い、予定手術前の当直に対する配慮等、負担軽減を図る。	適切な労務管理と、労使協定の遵守に努め、連続当直などが生じないよう管理を行っていく。	連続した当直が生じないよう管理し、調整された。
	医師の人員確保	診療科により医師の負担に偏りが生じないよう、必要人員を正確に把握し対応することにより負担軽減を図る。	関係大学との連携は今後も強化し、医師招聘が実現できるよう継続的な働きかけをしていく。また、各種説明会開催による臨床研修医の確保に努める。	関係大学との連携を引き続き強化していく。 臨床研修医の確保が出来ている。 令和6年度 新規臨床研修医 7名 令和7年度 新規臨床研修医 7名
	他医療機関・施設との連携を含む外来縮小の取り組み	継続した連携の強化により逆紹介患者の受入拡充による負担軽減。	他医療機関・施設等との機能分化や連携強化の推進。 ① れんけいのつどいの開催 ② 医療・介護連携のつどいの開催 ③ 紹介率目標 50.0% ④ 逆紹介率目標 30.0% ⑤ 選定療養費徴収 1,100円	① 11/13開催 ② 11/27開催 ③ 紹介率目標 55.7%（2月現在） ④ 逆紹介率目標 26.2%（2月現在） ⑤ 409件（2月現在）
	女性医師に対する支援	有給休暇、育児休暇などを取得しやすい環境を整備すること等、子育てしながら働き続けられる職場を目指す。	引き続き、育児休暇等の取得がしやすい職場環境の整備に努める。 出生サポート休暇の新設。	育休取得対象者なし 産休代替えの医師派遣を継続してもらう働きかけを行っていく。 出生サポート休暇取得 0件
	業務の効率化に資するICTの利活用の推進	電子カルテシステムの機能の充実や利用の見直しを行い、負担軽減を図る。	診療支援システム(電子カルテ)の充実。 ① 電子カルテ使用上の意見をNECに伝達し医師の入力効率の上昇を目指す。 ② 定期的なバージョンアップ、機能強化を行い負担軽減を図る。	① システム担当直通電話を設け、速やかな対応を行った。 ② 電子カルテネットワークの更新を実施。環境整備を行った。11/17～23

看護師の 負担軽減計画 及び評価	看護師の負担軽減	多職種によるタスクシェアリング／タスクシフティングを推進し、看護補助者の活用、システムの強化などにより、看護師の負担軽減を図る。	多職種との協働により、看護ケアが実践できる時間を確保する。 ① 検査技師による外来採血(検査科) ② 放射線技師による造影撮影後の抜針(放射線科) ③ 包括病棟入院診療計画書ADL項目の評価と記載(リハビリ科) ④ ペースメーカー手術時の器械出し(臨床工学科)	① 採血混雑時に検査職員を増員し対応している。 ② 約66件/月 ③ 実施している。 ④ 約6件/月
	女性看護師に対する支援	有給休暇、育児休暇などを取得しやすい環境を整備すること等、子育てしながら働き続けられる職場を目指す。	引き続き、育児休暇等の取得がしやすい職場環境の整備に努める。 出生サポート休暇の新設。	育休取得率 100% 出生サポート休暇取得 2件
	業務の効率化に資するICTの利活用の推進	電子カルテシステムの機能の充実や利用の見直しを行い、負担軽減を図る。	看護関係文書等の整備に努める。 ① 看護関係文書を容易に作成できる体制の構築。 ② 定期的なバージョンアップ、機能強化を行い負担軽減を図る。 ③ 新再来受付機の導入によるスケジュール票の自動出力。 ④ 外来案内表示板による患者呼出し業務の軽減。	① 医事課と連携し文書作成業務の負担軽減を図った。(自動入力等) ② 電子カルテネットワークの更新を実施。環境整備を行った。11/17～23 ③ 運用開始後に精査を行い、スケジュール票や運用の見直しをした。 ④ 外来案内表示板による患者呼出し業務の軽減。3/17導入予定。
	看護師の人員確保	看護補助者を含めた看護職員の確保により、負担軽減を図る。	年間を通じての看護師・看護補助者の募集を行い人員を確保する。 看護実習生の受け入れを積極的に行い看護職員の確保に努める。	新規の派遣会社と契約し、夜間の看護補助者を確保することで看護師の負担軽減につなげた。

令和7年度 医師及び看護師の負担軽減計画

大曲厚生医療センター

	分野	項目	令和7年度	
			計画	評価
医師の 負担軽減計画 及び評価	医師の労働時間管理	医師の労働時間管理の適正化に向けた取り組みを行う。	在院時間の客観的な把握 ① 勤怠システムによる客観的な出退勤管理 ② 時間外労働の業務内容の分析と課題の明確化 ③ 当直明けの休みの推奨 ④ 診療時間内の病状説明	
	医師の負担軽減	医師と多職種のタスクシェアリング／タスクシフティングを推進し、より効率的な業務体制を構築し、負担軽減を図る。医師事務作業補助体制の充実。	多職種との連携による役割分担。 ① 処方への疑義照会における事前合意プロトコル(薬剤科) ② がん患者指導管理における説明(薬剤科) ③ 超音波検査に対する迅速な報告(検査科) ④ 検査結果説明業務等の補助(検査科) ⑤ 特別食や栄養指導などが必要と思われる患者を速やかに医師にフィードバックし指示を受ける(栄養科) ⑥ 肺がんCT検診認定技師による一次読影(放射線科) ⑦ リハビリ処方箋の修正(リハビリ科) ⑧ リハビリ開始時の患者説明(リハビリ科) ⑨ 各種計測(身障、年金、保険等)(リハビリ科) ⑩ カンファレンス記録の転記(リハビリ科) 医師事務作業補助者の配置による医師の事務作業の負担軽減。 ① 医師事務作業補助加算15対1の維持 ② 研修会参加や勉強会開催によるスキルアップ ③ NDC登録や臨床データ集計等の補助	
	医師の勤務シフト	日当直勤務体制の効率的な見直しを行い、予定手術前の当直に対する配慮等、負担軽減を図る。	適切な労務管理と、労使協定の遵守に努め、連続当直などが生じないよう管理を行っていく。 「宿日直許可のある宿直・日直」と「宿日直許可のない宿日直」を区別した管理の実施。	
	医師の人員確保	診療科により医師の負担に偏りが生じないよう、必要人員を正確に把握し対応することにより負担軽減を図る。	関係大学との連携を強化し、医師招聘が実現できるよう継続的な働きかけをしていく。また、各種説明会開催による臨床研修医の確保に努める。	
	他医療機関・施設との連携を含む外来縮小の取り組み	継続した連携の強化により逆紹介患者の受入拡充による負担軽減。	他医療機関・施設等との機能分化や連携強化の推進。 ① れんけいのつどいの開催 ② 医療・介護連携のつどいの開催 ③ 紹介率目標 50.0% ④ 逆紹介率目標 30.0% ⑤ 選定療養費徴収 1,100円	
	女性医師に対する支援	有給休暇、育児休暇などを取得しやすい環境を整備すること等、子育てしながら働き続けられる職場を目指す。	引き続き、育児休暇等の取得がしやすい職場環境の整備に努める。 生理休暇の周知及び利用しやすい環境を整備する。	
	業務の効率化に資するICTの利活用の推進	電子カルテシステムの機能の充実や利用の見直しを行い、負担軽減を図る。	診療支援システム(電子カルテ)の充実。 ① 電子カルテ使用上の意見をNECに伝達し医師の入力効率の上昇を目指す。 ② 定期的なバージョンアップ、機能強化を行い負担軽減を図る。	

看護師の 負担軽減計画 及び評価	看護師の負担軽減	多職種によるタスクシェアリング／タスクシフティングを推進し、看護補助者の活用、システムの強化などにより、看護師の負担軽減を図る。	多職種との協働により、看護ケアが実践できる時間を確保する。 ① 検査技師による外来採血(検査科) ② 放射線技師による造影撮影後の抜針(放射線科) ③ 包括病棟入院診療計画書ADL項目の評価と記載(リハビリ科) ④ ペースメーカー手術時の器械出し(臨床工学科)	
	女性看護師に対する支援	有給休暇、育児休暇などを取得しやすい環境を整備すること等、子育てしながら働き続けられる職場を目指す。	引き続き、育児休暇等の取得がしやすい職場環境の整備に努める。 生理休暇の周知及び利用しやすい環境を整備する。	
	業務の効率化に資するICTの利活用の推進	電子カルテシステムの機能の充実や利用の見直しを行い、負担軽減を図る。	看護関係文書等の整備に努める。 ① 看護関係文書を容易に作成できる体制の構築。 ② 定期的なバージョンアップ、機能強化を行い負担軽減を図る。 ③ 音声入力によるカルテ記載の負担軽減。 ④ 外来案内表示板による患者呼出し業務の軽減。	
	看護師の人員確保	看護補助者を含めた看護職員の確保により、負担軽減を図る。	年間を通じての看護師・看護補助者の募集を行い人員を確保する。 看護実習生の受け入れを積極的に行い看護職員の確保に努める。	